

経営比較分析表（平成29年度決算）

兵庫県 佐用町

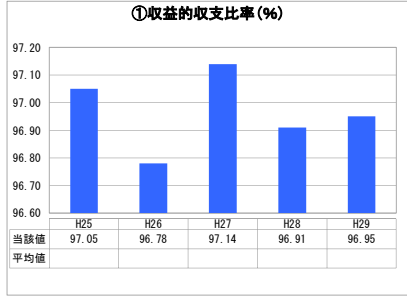
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	個別排水処理	L2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	29.63	100.00	2,984

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
17,354	307.44	56.45
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
5,088	269.81	18.86

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



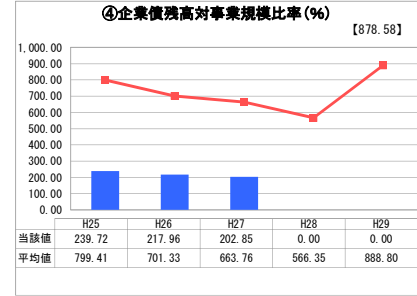
「単年度の収支」



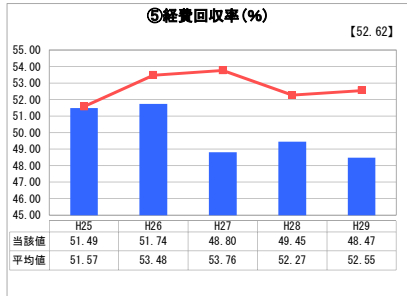
「累積欠損」



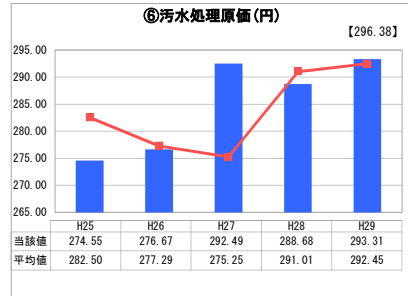
「支払能力」



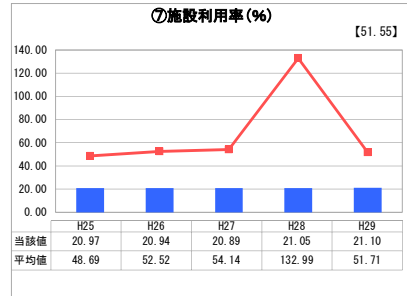
「債務残高」



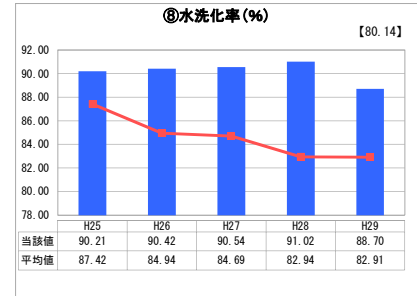
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

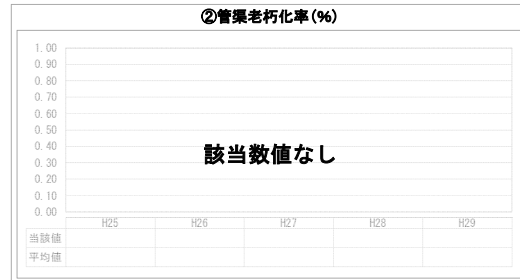


「使用料対象の捕捉」

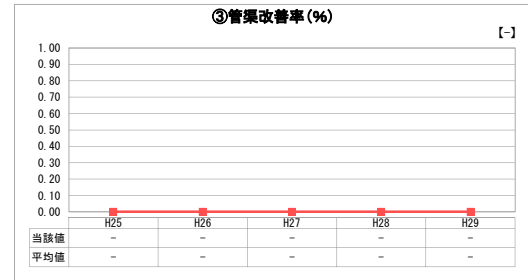
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- 収益的収支比率は前年に比べ若干改善されたが、経費回収率が低下していることからわかるように、一般会計からの繰り入れによる部分が大きい。更なる維持管理経費の節減、料金徴収体制強化の必要がある。
- 企業債残高対事業規模比率は起債償還を一般会計繰出し金に依存しているため当該値に反映されていない。
- 経費回収率については、全国平均を下回っており、今後も接続人口減少による使用料の減少が見込まれるため、使用料の改定なども視野に入れたコスト計画の策定が必要である。
- 汚水処理原価は前年より増額しており、最近5年間は高止まりの傾向にある。今後も人口減少による有収水量の低下が見込まれ、コスト増加の可能性がある。
- 施設利用率は最近5年間は同程度を維持している。
- 水洗化率は全国平均を大きく上回っており、100%を目標にさらに推進を図る。

2. 老朽化の状況について

浄化槽の老朽化が着実に進んでいる。不在世帯の浄化槽の管理体制の見直しも含め、更新計画の策定が必要になっている。

全体総括

佐用町の下水道3事業（特環、農集、個排）のうち、特に過疎化が進む中山間地域を中心に区域設定がなされているため、接続人口の減少と利用休止施設問題が最も顕著に表れている。一般会計からの繰入金も増加傾向にあるため、より効率的な事業運営と一層のコスト管理が求められている。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。